

○議長（松尾徹郎君）

休憩を解き、会議を再開いたします。

次に、阿部裕和議員。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

阿部議員。〔2番 阿部裕和君登壇〕

○2番（阿部裕和君）

みらい創造クラブ、阿部裕和でございます。

発言通告書に基づき、1回目の質問をいたします。

1、窓口サービスの向上とDX推進について。

糸魚川市では現在DX推進計画を策定し、取り組んでいます。DXとはデジタルの力を使い、変革していくことであり、表面的なデジタル化だけではなく現状の業務の根本的かつ本質的な問題に目を向け、業務改革を図ることだと考えます。

また、自治体システムの標準化が2025年度末に迫っていますが、これについてもただシステムを導入するのではなく、当市が抱える課題を解決し、市民サービスの向上を図れるシステムを導入してこそDXの推進だと考えます。

これらを踏まえ、以下伺います。

- (1) 窓口業務において何を解決したいのか、どういった窓口にしたいのかを明確にし、その目標に向かって取組を進めることが重要であると考えますが、市としての見解をお聞かせください。
- (2) 「自治体窓口DX」においては、「業務改革」と「システム活用」の2つをセットで取り組むことが重要とされています。デジタル庁の事業で業務改革のノウハウの提供、アドバイスをもらえる「窓口BPRアドバイザー派遣事業」の活用についてお考えはありますでしょうか。
- (3) 今後の自治体システムの標準化やDX推進に向け、全庁を挙げて、取組を推進していく必要があると思いますが、お考えをお聞かせください。
- (4) 出生やお悔やみなどの申請は、各課を回り手続をしているのが現状です。関連する手続をまとめて受付できるワンストップ窓口設置へ向けた検討状況はいかがでしょう。
- (5) ワンストップ窓口設置の際、課題となることは何だと捉えていますか。
- (6) （仮称）駅北子育て支援複合施設は子育ての拠点施設にする必要があり、そこに出生ワンストップ窓口を設置することで利用者の満足度向上及び、市が求めているにぎわい創出にも寄与すると考えます。出生ワンストップ窓口設置の可能性についてお考えをお聞かせください。

2、自然や特色を生かした、魅力ある公園づくりについて。

市内には77か所の公園がありますが、公園や施設の維持管理については昨今の人員不足も重なり、さらに困難となり、今後統廃合が検討される公園も多くなっていくことが予想されます。

都市公園の使い方が多様化する中、2017年の都市公園法の改正に伴い公募設置管理制度（P

a r k - P F I ) が創設されました。

公募設置管理制度とは、都市公園において飲食店や売店などの公園施設（公募対象公園施設）の設置または管理を行う民間事業者を公募により選定する手続のことです。

そして、事業者が設置する施設から得られる収益を公園整備に還元することを条件に、事業者には都市公園法の特例措置がインセンティブとして適用される制度です。

このことにより、民間事業者が公園の整備や管理を行えるようになり、全国の都市公園で再生・活性化につながっている事例が見受けられます。

市内においても、民間の発想や創意工夫を公園運営に導入することで、魅力ある公園の整備や、公園を核としたエリアの価値向上も図ることができ、交流人口拡大につながる可能性を持つ公園もあると思います。

これらを踏まえ、以下伺います。

(1) 財政的な負担を軽減でき、持続可能で魅力的な公園をつくることができるのが公募設置管理制度です。今後この制度を導入し、維持管理だけでなく発展までを見据えた検討をしていただきたいと考えますが、市の見解を伺います。

(2) 市内の公園において、民間事業者や団体等から公園の活性化や再編に対する提案や相談等の問合せが来たことはあるのか伺います。

以上、1回目の質問お願いいたします。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

○市長（米田 徹君）

阿部議員のご質問にお答えいたします。

1番目の1点目につきましては、全庁的な取組が必要であり、市役所を訪れるお客様と職員の、それぞれの目線で課題を抽出した上で改善していく必要があると考えております。

2点目につきましては、窓口BPRアドバイザー派遣事業を活用し、窓口サービスの向上に取り組んでまいります。

3点目につきましては、DX推進計画に基づき、全庁を挙げて推進してまいります。

4点目につきましては、出生関係の手続は、ワンストップ窓口の検討を進めております。

また、死亡関係の手続は既に複数部署に関わるものを市民課窓口で対応しており、今後は、お悔やみコーナーを設置する予定であります。

5点目につきましては、関係部署の基幹系業務システムの横断的な活用と、将来的には窓口支援システムの導入であると考えております。

6点目につきましては、出生ワンストップ窓口を新たに設置することは困難と捉えておりますが、母子手帳の発行や子育てに関する相談窓口を検討しております。

2番目の1点目につきましては、都市公園の魅力の向上に有効な仕事をして、公民連携で調査研究を進めてまいります。

2点目につきましては、現在、糸魚川商工会議所の産業創造プラットフォームの美山プロジェクトから、美山公園の有効活用に向けた様々な提案を頂いているところであります。

以上、ご質問にお答えいたしました。再度のご質問によりましては、所管の部・課長からの答弁もありますので、よろしくお願いいたします。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

阿部議員。

○2番（阿部裕和君）

2回目の質問させていただきます。

窓口サービスのところからです。10月19日に市民厚生常任委員会で福井県鯖江市、10月31日に会派で北海道北見市に、どちらも書かない窓口、窓口サービス改善の取組について、視察に行ってきましたので、そのときのことも踏まえて質問をさせていただきます。

現状、地方自治体ごとにそれぞれ異なる情報システムとなっておりますが、令和7年度末までに統一、標準化する方向性が示され、その期限も迫っております。システム標準化に合わせて、窓口サービス向上、また窓口DXを進めていかなければならないと思っています。そのためには、どういった窓口にしたいのかということを確認にして、取組を進めていかなければならないと考えます。そのために、まず、市民目線に立って考えること、また、どういった業務に問題が、課題があるのかを把握するための取組が必要であると思っておりますが、いかがお考えでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

川合市民課長。〔市民課長 川合三喜八君登壇〕

○市民課長（川合三喜八君）

市民の皆様が利用しやすい窓口にするために、まずは利用者が窓口や各種手続に対し、どう思われているか、現状把握が重要であると考えております。そのために、窓口利用者アンケートや窓口利用者体験調査等を実施いたしまして、課題を抽出し、全庁的に窓口の業務改善を行う必要があると考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

阿部議員。

○2番（阿部裕和君）

今ほど課長より、現状の調査が必要だということなんですけれども、視察に行ってきた北見市も同様に、窓口業務における課題の実態把握のために、新人職員に対して窓口を利用してもらって、そういった実験を行ったそうです。そうしたところ、申請書を書けない。ここが分かりづらいなどの課題の抽出ができて、そのことをきっかけに、たまにしか利用されない、市民の方はなかなか窓口を常に利用というのはないと思うんですけれども、そういったたまにしか利用されない人はどう思うんだっていうところを見つめ直して、市民目線に立って考え始めたそうです。

これについては3月議会の一般質問でも取り上げさせていただきました。その際、糸魚川市でもそういったことができないかというふうに提案させていただいたんですけれども、その際、行政からの答弁として、新人職員なり若手職員が、まだ気持ちが真っさらなうちにそのような体験をすることで、実際どうなのかという実態も把握してみたいというふうにありました。あれから時間も経

過しておりますが、実態把握について何かアクションは起こされましたでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

渡辺総務課長。〔総務課長 渡辺 忍君登壇〕

○総務課長（渡辺 忍君）

阿部議員の3月の質問のときに、私のほうから回答させていただきましたので、私のほうから今回も回答させていただきます。

先般、新人職員に対して、実際に体験をしてもらいました。それで、申請手続等をやっていた上で、動線の案内のこととか、あと申請用紙の文言等について、いろいろ気づいた点を今意見を聞いておるところでございます。

ただ、業務実態把握につきましては、これだけってわけにはいきませんので、今ほど市民課長も述べたとおり、いろんな方法から、市民からの声を拾い上げていきたいというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

阿部議員。

○2番（阿部裕和君）

行動に移していただいて、本当にありがとうございます。ぜひともこういった取組を進めていただきたいと思っておりますし、こういった取組をすることで、見えてくるものもあると思っております。一例ですが、北見市の場合、こういった手続ができる窓口なのかというのを市民に分かりやすくするために、ジャンル別に色分けをしたり、子育て、証明書、年金、介護、高齢など、何々課という表示をやめて、一目で分かる案内看板に変更したというのもありました。

課題の共通認識であったり、やれることから改善していくためには、まず実態把握というのが必須だと考えます。改めてですが、実態把握の取組について、今後どのように展開していくお考えか伺います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

川合市民課長。〔市民課長 川合三喜八君登壇〕

○市民課長（川合三喜八君）

実態把握につきましては、既に窓口改革の庁内ワーキングチームというのを設置しておりまして、そちらで取組を実施したいというふうに考えております。コロナ禍で、ここ3年間、窓口アンケートを実施しておりませんでした。今年度、再開したいと思っております。以前は、市民課と両事務所の住民係のみ窓口アンケートを行っておりましたが、全庁的な窓口を行っている部署全てに関してアンケート調査を実施したいと思っております。それと併せて、先ほども申し上げましたが、詳細なる窓口利用体験調査を行って、窓口における課題等について把握したいというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

阿部議員。

○2番（阿部裕和君）

よろしくお願いいたします。

（2）のところになります。窓口DXは、業務改革とシステム活用をセットで取り組むことが重要とされています。窓口BPRアドバイザー派遣事業は、デジタル庁で委嘱した地方自治体職員等により、オンライン及び現地派遣による支援を、1自治体当たり原則3回実施され、その費用も無料となっております。今ほど市長答弁で、活用していきたいというお話ありましたが、ホームページ見てみますと、デジタル庁のホームページ見てみますと、来年2月までが支援実施期間となっております。ぜひとも早急に活用していただきたいと思いますが、改めてお考えをお聞かせください。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

川合市民課長。〔市民課長 川合三喜八君登壇〕

○市民課長（川合三喜八君）

窓口、BPRアドバイザー派遣事業につきましては、今年度は来年2月までの申込みになっておりますが、来年度も引き続き実施されるというふうに聞いております。まず、派遣の申込みをする前に、窓口における課題等の実態把握をした上で申し込んでいただきたいというのがございますので、早急にそちらの実態把握を行った上で、できるだけ早い段階で窓口BPRアドバイザー派遣事業を活用して、いろんな角度からご意見を頂戴しまして、窓口サービスの改善に取り組んでまいりたいというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

阿部議員。

○2番（阿部裕和君）

よろしくお願いいたします。

先ほどの糸魚川市の全庁の窓口における課題の抽出の取組と併せて、このBPRアドバイザーの業務改善の取組を進めることで、本当に内側から見た課題と外の目から見た課題というのが抽出できると思いますので、改めて窓口業務改善に向けた取組を推進していただきたいと思います。

次に、（3）のDX推進のところでお聞きします。

システムをただ導入してデジタル化を進めることは、DXではなくIT化だと私は考えます。DXは、デジタルの力を使いつつ、業務そのものを変革していくものであります。IT化による変化は量的変化、DXによる変化は質的变化とも言われております。糸魚川市のDX推進計画の中でも、DX推進には表面的な取組ではなく根本的、かつ本質的な問題に目を向け、それを解決していくという覚悟と意思が必要。まちの未来のために何をどう変革していくべきか常に考えるというふうになっております。DX推進のためには、具体的にどんなことに今取り組んでおるのでしょうか、伺います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

渡辺総務課長。〔総務課長 渡辺 忍君登壇〕

○総務課長（渡辺 忍君）

お答えいたします。

やはりDX推進につきましては、業務改善も含め、外側から見た目と内側から見た目、両方が相まってできるものだと思っております。今、DXの推進のための取組につきましては、庁内各部署からDXの推進リーダーというものを選出をさせていただいて、新たなデジタルツール等の導入のことを検討したり、ヒアリング等を行っておるところでございます。まずはできるところからやっておるところでございます。今後も、DX推進については、庁内及び今ほど言いました市民から目線の部分も併せ持って、両方で進めてまいりたいというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

阿部議員。

○2番（阿部裕和君）

今、私も窓口サービスとDX推進を併せて話ししてるんですけど、市民課が結構出てくるような内容にもなってくるとは思うんですけど、ある一部の課であったり職員だけが意識するだけでは、DX推進はもとよりも、変革すら厳しいというふうに思っております。まず、職員全体の意識を統一していくということが必要だと思いますが、何をどう、糸魚川市が掲げるまちの未来のために、何をどう変革していくべきか常に考えるという意識の統一は現状できているか、今後どういうふうに意識をそこまで持っていくのかちょっと伺います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

渡辺総務課長。〔総務課長 渡辺 忍君登壇〕

○総務課長（渡辺 忍君）

お答えいたします。

やはり意識の統一というのは非常に大事なことでございまして、やはり職員みんなが同じ方向に向かって進むためにも必要なことだろうと思っております。そのために、今DXの推進に向けてですけれども、全職員向けの研修を今実施をいたしましたし、また、それぞれ、今ほど申し上げましたが、推進リーダーが中心となって業務の見直し、これを行うことで、例えば自分たちの業務の改善にもなりますし、軽量化といいますか、にもつながるといふ部分も気持ちの上で持っていただいた上で、全員同じ方向を向いた中で取り組んでまいりたいというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

渡辺総務部長。〔総務部長 渡辺孝志君登壇〕

○総務部長（渡辺孝志君）

では、私のほうからも補足で説明させていただきたいと思っております。

確かにデジタル化のところというのは、効率性を求めるというのは大事だと思いますが、やっぱりその業務を、いま一度見直す、私が言うのは業務フローですね、流れです。特にやっぱり財務ですとか庶務の規則ですとか、いろんなルールで動いております。デジタル化にそのまま当てはめてしまいますと、非常に複雑なものになってまいりますので、いま一度、総務課長が言った職員の意

識改革という点については、業務フローをもう一度見直す。その中からやっぱり効率性というのをしっかり求めていく。そこが一番肝要かと思いますので、その点をしっかり踏まえて進めさせていただきたいと思います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

阿部議員。

○2番（阿部裕和君）

ぜひとも総務部長、リーダーシップ取っていただいて、全庁をまとめていただきたいと思います。よろしくをお願いします。

続いて、ワンストップ窓口についてお聞きいたします。

お悔やみに関するワンストップ窓口、いわゆるお悔やみコーナーですね。今ほどやるというふうにお聞きをいたしました。ありがとうございます。

まず私自身も、まずお悔やみコーナーからできないかなというふうに思っていたので、本当にうれしく思います。具体的に、いつからやるというようなのはありますでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

川合市民課長。〔市民課長 川合三喜八君登壇〕

○市民課長（川合三喜八君）

お悔やみコーナーの設置運用につきましては、来年1月中旬を開始予定としております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

阿部議員。

○2番（阿部裕和君）

承知いたしました。こうした市民に有益な取組というのは、やっていただきたいと思います。先ほどのDXとともに進めていっていただきたいというふうに思っております。

また、出生ワンストップのほうは、なかなか難しいのかなというか、今後検討していくということだったと思うんですけど、改めてお考えをお聞かせください。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

嶋田こども課長。〔教育委員会こども課長 嶋田 猛君登壇〕

○教育委員会こども課長（嶋田 猛君）

お答えいたします。

現在、関係する課におきまして、手続の種類全てできるのか、一部をできるのかなどの打合せを行っております。まずは実施に当たっての課題等の把握のため、試しといいますか試行的に実施したいというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

阿部議員。

○2番（阿部裕和君）

前向きな取組、本当にありがとうございます。

窓口対応についてですが、様々ご意見、私のところにも頂いております。こども課の窓口についてもご意見を頂いております。未満児保育の入園に関することでもあります。

令和6年度の未満児保育の入園申込み期間というのが、令和5年、今年の10月1日から10月末まででありました。例えば令和5年11月生まれのお子さんに関しては、生まれてすぐ申込みをしようとしても、受付が締め切られていて、1歳になり、育児休暇が明けた時点でも、保育園に預けられないという事例が起こっていることは、3月議会でも一般質問でお伝えさせていただきました。そのとき行政からは、その改善策として分かりやすい説明資料に作り直して、妊娠時、出産届の提出時に、分かりやすい説明をしていくという答弁ありました。説明資料や窓口対応は、どういった改善があったのか伺います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

嶋田こども課長。〔教育委員会こども課長 嶋田 猛君登壇〕

○教育委員会こども課長（嶋田 猛君）

お答えいたします。

実際、今出産する前に、妊娠の届出時に市民の方々とこども課の職員が接する機会といたしますか、そういった場面がございます。そういった際に、妊娠の届出時に説明をいたします紙の中に、実際、育休後の保育園等の利用を検討しているかとか、あと保育園の情報収集を行ってくださいといった項目を活字で載せてみたり、またそれ以外の質問をするようなシートがありますので、そういった中でも仕事の状況等を聞く中で、仕事をしてる方であれば、産休・育休後の保育園の状況といった部分も聞き取れるような形で説明をしてきているところでございます。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

阿部議員。

○2番（阿部裕和君）

ご意見を頂いた方は、来年、出産のご予定なんですけど、保育園入園に関して、いずれの時点でも説明を受けていなかったというふうにおっしゃってます。今回、入園の申込みをしたそうなんですけど、その何でできたかというのが、10月に入ってから通ってる美容室の従業員の方から申込みについてお聞きしたそうです。行政としては、十分に説明しているというふうに考えていると思いますが、今回のように伝わっていないという事例もございます。

この件に関しては、嶋田課長とも、事前にお伝え、こういったことがあるということはお伝えしたときに、新生児訪問等でも保育園入園に関して説明しているというふうにお答えいただきました。

ですが、新生児訪問のタイミングですと、11月以降に生まれたお子さんは、締切り後に通達されることになりまして、この方のように、生まれる前から未満児保育の入園申込みをしなければならぬ方がおられる現状がございます。入園に関して、漏れなく、漏れることなく全員に伝わる方法というのを考えていかなければならないと思いますし、場合によっては、周知の仕方自体も見直す必要があると思いますが、いかがお考えでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

嶋田こども課長。〔教育委員会こども課長 嶋田 猛君登壇〕

○教育委員会こども課長（嶋田 猛君）

お答えいたします。

誕生する月、また園のほうに入園できる月、さらには申込みをできる月ということで、それぞれ1年間の中でもそれぞれ人によって異なってくる部分もあろうかと思っております。

そういった中で、出産から入園申込みまで、やはりある程度期間がたつような方の場合もあるため、例えば先ほど申し上げました、妊娠届出時の際の説明を徹底するとか、また出産の届出時の際に、糸魚川市のほうからお渡しする封筒、そういったものがありますが、そういったそのものへ少し強調するような形でお知らせ文を印字するであるとか、そういったことを徹底していきたいというふうに考えております。

ただ、あまり情報をたくさん伝え過ぎますと、なかなか相手のほうで取捨選択できない場合もございまして、そこは適時、適切な情報といったものを提供していく必要があるというふうに思っておりますし、議員おっしゃいましたように伝えるではなく、相手の立場に立ちまして、伝わるといったことは徹底していきたいと考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

阿部議員。

○2番（阿部裕和君）

近年では、夫婦共働きのご家庭がほとんどでありますし、基本的に育休というのは、お子さんが1歳になるまでであります。1歳になったと同時に未満児保育に預けたいという、希望される方も以前より多くなってきていると思います。

また、入園に関するハードルというんですかね、パートは何点とかというのがあると思うんですけど、今回、一般質問ちょっと通告外なんですけれども、今後その見直しも必要なんじゃないかなというふうに私は思っておりますので、そのことをお伝えしておきます。

そういった背景鑑みて、より丁寧で分かりやすく、漏れないように対応していただきたいと思っておりますし、いろんな情報を伝えるというんですけれども、その子の未満児保育に関する情報というのが、今の夫婦にとって、子育て世代にとって、以前よりも優先順位が高くなってきたんじゃないかなという、重要な情報なんじゃないかなというふうに私は思っておりますので、また、当事者の方たちとも話をしながら丁寧に進めていっていただきたいと思っております。よろしくお願ひします。

次に、駅北子育て支援複合施設へのワンストップ窓口の設置、こちらのほう、なかなか厳しいというふうなお答えあったんですけれども、3月議会でもこの件について質問いたしました。そのときは、今後、運営方法を定める中で検討していくというふうにありました。今回、設置は難しいという内容の答弁だったと思うんですけれども、どんな検討があったかお聞かせください。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

嶋田こども課長。〔教育委員会こども課長 嶋田 猛君登壇〕

○教育委員会こども課長（嶋田 猛君）

お答えいたします。

今回、整備を計画しております駅北子育ての支援施設の位置、またこちらの市役所本庁舎の位置、こちらにつきましては、距離等が近いということでもありますので、それぞれに同じ機能を持ちますと、人的、また財政的にも負担が生じるのではないかということなので難しいという判断に至っております。

しかしながら、子育て支援施設の中では、母子手帳の発行であるとか相談業務を充実させるなど、子育て世代の方をはじめまして、市民にとって身近な施設となるよう努めていきたいというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

阿部議員。

○2番（阿部裕和君）

今お答えあったように、やはり私はあそこが、あそこというか今後計画されているところが、糸魚川市の子育ての拠点の施設になっていただきたいと思っておりますし、本当ににぎわいに寄与するものにしていきたいというふうに私自身思っておりますので、そうなるように取組をお願いいたします。このテーマの最後になります。

今回、視察に行ってきました北見市が、窓口業務の改善、全国的にも有名な自治体であります。視察で説明してくれた職員の方の言葉を紹介させていただきます。

窓口業務の改善で一番最初にやれるのは、ワンストップ窓口ですとおっしゃっていました。この方は、当時こども課に配属されていて、ワンストップ窓口に反対をしていたそうです。各課にまたがる手続において、誰が責任を取るのかというのが理由というふうにお話をされていました。

しかし、実際ワンストップ窓口を設置してみると、利用されている市民の方の満足度も上がり、やってよかったとおっしゃっていました。

北見市は、まずアナログ改善を図り、システム支援を組み合わせ、さらにはフロント業務を担うシステムを独自に開発し、書かない窓口が生まれました。お子さん3人、5人家族でのケースで、私も実際に転入手続の体験をさせていただきました。小学校の入学等の手続も含めて、窓口を移動することなく、10分かからずに手続を終え、書かない窓口というだけあり、その間、文字を書いたのは、自分の名前のみを2枚の紙に書いただけでした。すごく分かりやすく、市民に優しい窓口と感じましたし、書かない窓口は、職員の負担の軽減にも寄与しているということでした。どうか、糸魚川市でも、書かない窓口導入に向けた取組を推進していただきたいと思っております。

また、市役所職員の姿勢もすばらしいと感じました。そういったことを学ぶため、肌で感じるためにも、また書かない窓口が、実際どういったものなのかというふうには体験するためにも、ぜひとも北見市に行政視察に行ってください。そう思いますが、いかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

川合市民課長。〔市民課長 川合三喜八君登壇〕

○市民課長（川合三喜八君）

今年度、北見市と同様の窓口支援システムを導入しております見附市のほうへ視察に行っていました。それと、市民厚生常任委員会の皆様方と一緒に、鯖江市のほうも視察をさせていただきました。両市とも、北見市が行っております完全なるワンストップ窓口の実現までには至っておりませんでした。

私も、議員おっしゃるとおり、北見市は、全国の最先端の窓口対応をされておると思っております。可能であれば、北見市、または北見市をモデルに窓口改革を行った静岡県の浜松市のほうに視察に参加したいというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

阿部議員。

○2番（阿部裕和君）

ぜひともいろんな自治体の事例あるかと思えます。本当にいろんなことを研究して、糸魚川市の窓口がよくなるように推進していただきたいと思います。これは市役所全体に言えることですが、今こなしている業務を変えていくということに対して、多くの職員の方が抵抗を感じるというのも十分理解しているつもりですが、課題と向き合いどう改善するか、デジタルでできるところはデジタルの力を使って、効率化を図ってDXを推進することは、将来、職員の負担にも軽減にもつながると思っております。

また、幾らオンライン申請が進もうとも、窓口業務はなくなると私は思っております。市民が使いやすい窓口になるよう、サービスの向上、またDX推進の取組の強化をお願いして、次の質問に移りたいと思えます。

次の質問、公園づくりのほうに行きます。

P a r k－P F Iについては、今後、調査・研究していくというふうなお話でしたが、これについては推進していただきたいと思いますし、公園を核とした新たなスポットの創出までを見据えた検討をしていただきたいと思いますというふうに思っております。

市内で民間の発想を取り入れ、交流人口拡大を狙え、稼げる公園になり得る場所は、青海シーサイドパーク、能生海洋公園、そして、ご答弁にもありました美山公園、この3か所と私は考えています。全国的にも民間の発想を取り入れた公園が増加していますし、糸魚川市においても、その可能性がないかというふうに思うんですが、方向性として市長、お考え、いかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

○市長（米田 徹君）

お答えいたします。

都市公園にしろ他の公園にしろ、やはり目的を持って設置しておるわけでありますが、しかし、非常に広範囲だったり、また、非常に多様性のある公園であるわけでございますので、その辺をどのように生かしていけるか、またそれをやはり一番の売りに持っていけるかというところは、非常に可能性のある部分であるわけでありまして、今、議員ご指摘の点については、十分構想にかなうものと思っております。

また、他の公園につきましても、目的を絞ることによって、マニアックな方々がおいでいただけるようなものにもなるのではないかということで、もう一回やはり、我々が今管理してる公園については、検討していきたいと思っております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

阿部議員。

○2番（阿部裕和君）

ありがとうございます。

私たち会派、みらい創造クラブで、先日開催した地域の皆さんとの懇談会での出来事なんですけれども、須沢臨海公園のエリア、青海シーサイドパークに道の駅を設置できないかというふうな市民の方のご意見も頂きました。

先日の東野議員の質問に対し、市内においては新たに道の駅の設置は難しいという答弁でしたが、富山の還水公園のように、民間の発想を取り入れた稼げる公園への取組、交流人口の拡大を図る取組は、可能だというふうには私は考えております。仮に、青海シーサイドパークで民間活用の話が出た場合のことをお聞きいたしますが、あのエリアは、県と市、それぞれに所管がまたがるエリアであります。こうした場合、市としてはどのように関わり、進めていくのか、お考えを伺います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

長崎建設課長。〔建設課長 長崎英昭君登壇〕

○建設課長（長崎英昭君）

お答えいたします。

公園施設の有効活用をしていく上で、まず、今現在の利用の状況ですとか、あと周辺環境の状況の把握とか分析というものが必要になりまして、今後そういった公園が、どのように変わっていくのかというものを予測しながら、地域住民や関係機関と協議のほうを重ねて、計画案づくりというのを進めていくことが重要であると捉えております。

今、議員のほうからお話ありました青海シーサイドパークにつきましては、県の施設で市が日常管理を受託しているところでございますけれども、まず、地元であります須沢地区などの周辺の地域の皆さんのご意見とかをお聞きする必要がありますし、ある程度、素案等をできましたら、県のほうと協議のほうを進めていくことになるかと考えております。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

阿部議員。

○2番（阿部裕和君）

ありがとうございました。先ほど市長の答弁で、今後、公園の在り方、特化したりというところだったと思うんですけれども、私も本当にそう思います。

糸魚川市公共施設等総合管理指針の公園の個別計画に関するところで、お聞きいたします。

この個別計画には、小規模公園、児童遊園など、一部の公園ではほとんど利用のない箇所もあり、

今後、統廃合の検討が必要と記されています。この指針は、平成30年から10年間の計画であります。統廃合が考えられる公園は、何か所あるか等の検討、これまでに検討した内容、もしあれば伺います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

長崎建設課長。〔建設課長 長崎英昭君登壇〕

○建設課長（長崎英昭君）

現在、老朽化しておる公園の遊具とかにつきましては、更新とか撤去のほうを進めておるんですけども、公園の統廃合につきましては、当然、周辺地域のご意見とか今後の人口推移など、総合的に判断する必要がありますので、今、公園の中で避難場所として指定されている箇所もありますので、現状ちょっとなかなか進んでない状況でございます。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

阿部議員。

○2番（阿部裕和君）

現状、草刈り等は、シルバーの方をお願いしてるというふうには伺ってるんですけども、そのシルバー人材センターにおいても、今、人員不足というのがあるというふうにお聞きしてますし、そのせいもあり、草刈りも十分に行えていないというふうな状況であるというふうにお聞きしています。仮に、今後、統廃合、公園の統廃合があった場合には、公園機能を廃止する公園も出てくるかと思えます。そうなった場合、その公園の活用については、どういった活用ができるというふうにご検討しているか伺います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

長崎建設課長。〔建設課長 長崎英昭君登壇〕

○建設課長（長崎英昭君）

今、議員のほうからお話ありましたシルバー人材センターといいますか、草刈りの話、私もある程度は承知をしております。それで、もし廃止となったというのは、跡地利用ということだと思っております。いろいろな公園は、地域ごとに特性といいますか立地の条件がありますので、一概には言えないかとは思っております。例えば更地のまま防災機能として生かすとか、そういったやり方もあると思っております。いずれにしてもケース・バイ・ケースと考えるかと思っておりますので、また周辺地域の皆様のご意見をお聞かせ願う中で、活用方法のほうを考えていきたいと思っております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

阿部議員。

○2番（阿部裕和君）

全国的な事例見ますと、駐車場であったり住宅地にもなってるというような事例もあるようです。今ほど長崎課長おっしゃるように、やはりこれは地域住民の方と一緒に進めていかなければならないというふうに私も思っております。利用頻度が少なくても、公園は地域に密着した場所であり、

統廃合、また跡地の利用については、住民の方と一緒に進めていっていただきたいと思います。

また、利用が少ない公園に多く見られる現象だと思うんですけども、膝の辺りまで草が伸びていて、利用ができない公園もあると思います。このことについては、地域の方からも管理について、公園管理についてご指摘いただいております。このように、現状においても維持管理が厳しい状況であり、糸魚川市の財政状況であったり地域を取り巻く状況を見ますと、公共施設等総合管理指針の計画は、先延ばしできることではないというふうに考えております。

統廃合や今後の公園の在り方について、一步踏み込んだ議論が必要と考えますが、今後どのように進めていくか、お考えを伺います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

長崎建設課長。〔建設課長 長崎英昭君登壇〕

○建設課長（長崎英昭君）

議員のご指摘のとおり、今後の公園の維持管理を考えますと、やはり人的なものもありますし、あと財政的にも、厳しさを増してくる状況であることは間違いないと思います。

今ほどご意見頂きましたので、公園の在り方につきましては、周辺の住民の皆様と議論を重ねてまいりたいと考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

阿部議員。

○2番（阿部裕和君）

平成30年から計画策定して、もう5年経過しております。その中で、なかなか進んでないんじゃないかなというふうに見受けますので、本当に小さいことかもしれないんですけども、こういった公園であったりというところから進めていくことで、市全体の流れも見えてくるかと思うので、ぜひとも一步踏み込んだ議論であったり計画の推進をしていただきたいと思います。

公園は、地域に根づいており、統廃合については一筋縄ではいけないと思います。だからこそ地域の方と課題を共有し、共に考えて合意形成をしていかなければならないと思います。改めて、公園の統廃合について、また民間の発想を取り入れた稼げる公園について等、今後の公園の在り方についての議論を進めていただき、糸魚川市の未来のために、一步でも前進していただきたいと思います。

これで、私の一般質問を終わります。ありがとうございました。

○議長（松尾徹郎君）

以上で、阿部議員の質問が終わりました。

関連質問はありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

関連質問なしと認めます。

ここで暫時休憩いたします。

再開を55分といたします。